

県央・林業部トピックス（4月号）

コンテナ苗生産について生産者の方と現場打ち合わせを行いました。

4月22日（木）に、邑南町にてコンテナ苗生産現場を視察し、コンテナ苗生産に関する打ち合わせを行いました。生産現場の視察では、肥料の量を変えたり、不織布ポットで生産を試みたりするなどより良い苗を作るために試行錯誤していることについて話を伺いました。また、酷暑の影響で夏場の撒水の量が増えたため、コロナ対策支援事業で整備した水タンクがとても役に立っているとのことでした。

引き続き、現場に足を運び、現場のニーズに応じた支援をしていきたいと思っております。



県央・林業部トピックス（5月号）

ヒノキ球果に袋がけをしました。

5月19日（水）に、邑南町瑞穂採種園にて、カメムシ類によるヒノキ球果の食害を防ぐために袋がけを行いました。優良種子の確保や発芽率の向上のために必要な作業です。

当日は晴天に恵まれ、慣れない作業で最初はもたつきましたが、だんだんとコツをつかみ手際よく袋がけできるようになりました。私が袋がけしたヒノキの種が島根の森を作ると思うと、感慨深いものがあります。これからも、島根の森を作る手助けをしていきたいと思えます。



ヒノキの種子



ヒノキの球果

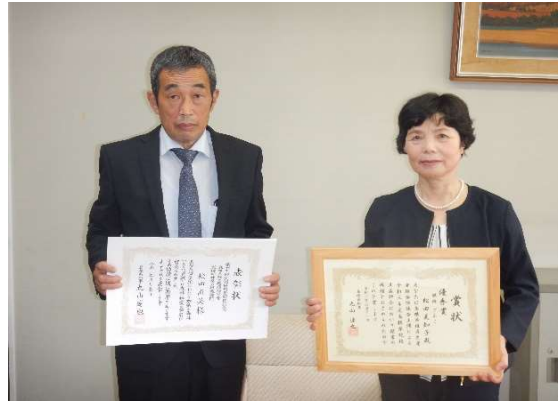
県央・林業部トピックス（6月号）

松田美知子氏が令和3年度乾椎茸品評会にて
島根県知事賞を受賞しました。

令和3年6月17日（木）島根県西部農林水産振興センター県央事務所に於いて松田美知子氏に表彰状が授与されました。松田美知子氏は令和3年6月7日に実施された令和3年度乾椎茸品評会にて優秀賞 第一席 島根県知事賞を受賞されました。表彰後の歓談では、今後も体力の続く限り、山の管理としいたけ生産を続けたいとの話題がでるなど、和やかな雰囲気の中お話しすることができました。

併せて全国植樹祭で令和2年度島根県緑の循環功労者（循環型林業の推進部門）を受賞された松田直美氏に賞状が授与されました。

ご夫婦2人への賞状の授与となりとても嬉しく思いました。お二人の今後の活動に県央事務所も微力ながらお手伝いしていきたいと思っております。



県央・林業部トピックス（7月号）

目指せ！被害ゼロ地域でのサル対策研修会

令和3年7月29日に「目指せ！被害ゼロ地域」のモデル地区に選ばれている大田市の加淵集落協定においてサル対策研修会を行いました。研修会後はサル目撃情報や被害状況、集落の体制等について聞き取りを行い、今後の対策について検討しました。

加淵集落協定では、ほ場整備に合わせて、水田園芸作物である白ネギなどを栽培する予定ですが、サルの食害にあわないよう、モデル地区として電気柵を活用し、サル対策を実施します。モデル地区として被害をゼロに抑えられるよう、鳥獣対策チームで支援していく予定です。



県央・林業部トピックス（8月号）

コンテナ苗生産拡大中 -苗木生産現場から-

県央管内では、今年度から新たに5名の方がコンテナ苗生産を開始し、順調に生産が進んでいます。令和3年8月3日（火）に苗畑の巡回を行っていたところ、コンテナ苗生産者より、コンテナ苗の一部に枯れがはじまっていることについて相談を受けました。苗畑で確認したところ、幹の一部が枯れ始めて幹を一周するとその部分から先が枯死するといった症状で、枯死部分には黒い斑点を確認しました。生産者と一緒に症状が出ている苗木を抜き取りを行いました。また、現場では病名を特定できなかったため、中山間地域研究センターにサンプルを持ち込みました。（後日、検査の結果、ペスタロチア病と判明しました）

引き続き苗畑の巡回や病害虫がでた際の対応について周知を行い、病害虫被害の早期発見に努め、46,000本の得苗を目指し、生産を支援します。



県央・林業部トピックス（9月号）

中国山地でニホンジカの捕獲を進めています。

島根県中国山地においては、ニホンジカの生息を前提とした農林業が行われておらず、今後のニホンジカの分布拡大により大きな農林業被害が発生することが懸念されることから防除的な取組として、林業地等で定着しつつある地域を対象に、指定管理鳥獣捕獲等事業を活用し、試験的な捕獲に取り組んでいます。

県央事務所では、島根森林管理署の協力のもと、邑南町にある国有林にて捕獲を行っています。



県央・林業部トピックス（10月号）

林業教育実施中です。

島根県では、新たな林業就業者を年間80人以上に増加させる取り組みを行っているところであり、高校での林業教育を支援しています。

今年度県央管内の高校では、8月24日（火）に行われた矢上高校の林業実習を皮切りに、矢上高校が2回、邇摩高校が1回、林業教育を行っています。参加した生徒からは「貴重な体験ができた」「かっこいい機械を動かして楽しかった」等の声上がり、教諭からは「生徒の進路に選択肢を増やすことができ良かった」との声を頂きました。

また、11月5日（金）に邇摩高校において、11月10日（水）に島根中央高校が林業教育を行う予定となっています。

これからも引き続き、林業教育について支援していきたいと思えます。林業講座や実習を通じ、農林大学校への進学や林業事業体へ就職されるなど、島根の林業の担い手として活躍していただけることを大いに期待しています。



矢上高校2年生 林業機械操縦体験



矢上高校1年生 VR操縦体験



邇摩高校2年生 林業事業体見学



邇摩高校2年生 チェーンソー体験

大型ドローンによる苗木運搬を実証試験しました！

令和3年11月25日に、大型ドローンを用いた苗木運搬の実証試験を美郷町にて行いました。8つのプロペラを持つこのドローンは、一度にコンテナ苗木を150本程度運搬する能力があります。ドローンによる苗木運搬の作業工程は、

- ①苗木が50本入った苗木袋をワイヤーに結びつけてドローンに固定して離陸
- ②離陸地点と苗木運搬地点に配置されたオペレーターによる有視界内で操縦の切替
- ③苗木運搬地点でワイヤーを切り離し苗木運搬を完了し離陸地点へ帰投

一連の作業に5分ほどしかかかっておらず、ドローンによる運搬能力の高さが印象に残りました。

今後ドローンによる苗木運搬と、人力による苗木運搬について、撮影した動画などをもとに労働強度、コストや現場への適応条件等を分析・評価していく予定です。地拵えや植栽、下刈りなどは機械化された作業が少なく、労働強度が高い作業です。今回の実証試験が植栽作業の省力化につながるよう努めていきます。



①



②



③

- ①ドローンが苗木を運搬し、植栽地付近に下ろす様子
- ②ドローンが苗木を固定し、離陸する様子
- ③ドローン運搬と人力運搬の労働強度を比較のために、植栽している作業者を記録している様子

県央・林業部トピックス（3月号）

林業就業講座（シイタケ植菌講座）を行いました。

島根県では、新たな林業就業者を年間80人以上に増加させる取り組みを行っているところであり、高校での林業学習を支援しています。

3月10日（木）邇摩高校にて、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、2年生13名を対象に林業就業講座を行いました。きのこの生産状況や原木や菌床の違いについて県職員が説明を行い、原木栽培の概要と植菌作業については三瓶こもればの広場木工館から講師を招いて行いました。

生徒からは、シイタケが林業であることを始めて知った、始めて植菌をして楽しかった、原木と菌床の違いがあるとは知らなかった、などの声が上がりました。

これからも引き続き、林業学習について支援していきたいと思えます。林業講座や実習を通じ、農林大学校への進学や林業事業体へ就職されるなど、島根の林業の担い手として活躍していただけることを大いに期待しています。



邇摩高校2年生 シイタケ植菌講座



シイタケ原木に シイタケ菌を打ち込む様子



菌糸の活着を図るための仮伏せの様子



シイタケ栽培についての学習、農林大学校林業科のPR